

# やすらぎの家デイサービスセンター 令和6年度事業報告

デイサービス事業 重点目標  
『利用者ひとりひとりが自分らしく生活する』

## 1. 利用者の確保

1日あたり平均8.38名の利用で稼働率69.8%、平均介護度2.05（稼働率、平均介護度共に前年度と同じ）となった。減少していた登録人数が徐々に増えたが、利用数日から数か月で入院や入所施設へ移行し、利用1年未満での登録終了は80%となり、その半数は心身の状態の悪化によるものだった。短期間で利用中止されたケースは3件あり、アセスメント不足や本人や家族への関わり方は、今後の課題となる。

## 2. 事業内容の充実・サービスの質の向上

外食や、外出する機会を増やし日常的に外への活動を少しずつ取り入れた。利用者同士の関係づくりができるよう趣味や特技をグループですること、お互い活動の時に声をかけ合える、気の合う関係づくりができています。室内で過ごしにくく、毎日戸外へ出かける方に対し、室内での過ごしやすさを探求したり、移動介助が困難になった方に対し、タブレットを活用し、デイでの様子を動画に撮り、家族に参考にしてもらったり、独居の方の困りごとには、写真や貼紙を工夫するなど、在宅生活ができるだけ続けられることを常に意識し、生活全体を捉えてケアを行った。また身体機能が維持できるよう個々に必要な動きや体操を取り入れ、楽しみながら体操できることも意識した。

ヒヤリハット報告件数は25件（前年度と同じ）、事故報告2件、苦情相談なし。

## 3. 職員の資質向上

日々の中で個々のケアの難しさに対し、ミーティングを通しスタッフ間で細かな気づきをもとに改善策を見出しながらケアにあたった。スタッフ各々が利用者の気持ちを第一に考え情報共有し、質の向上を目指した。

外部への研修参加が難しく、タブレットを活用した研修を取り入れた。介護スタッフは個々の目標にそったテーマに沿って、それぞれ自己学習を継続的に行った。業務の内容においても、効率化を意識し改善に努めた。

## 4. 連携と情報公開

タブレット端末の通信アプリを利用し、家族や他のサービス、ケアマネジャーとタイムリーに情報共有し、家族からは気軽に介護相談してもらうことができた。両親の老々介護を見て子供からのメッセージや遠方で暮らす家族からの連絡、また送迎時は仕事で会えない家族からの連絡があり、活用される方が増えている。日ごろの写真が届けられることも家族からの好評を受けている。

運営推進会議は、2回開催。デイサービス営業中に行い、日ごろの雰囲気を見てもらう事ができ、今年度からテーマに沿った市の情報を取り入れることで活発な意見交換ができた。

## 5. 地域との交流を推進

ほほえみ会ボランティアの皆さんには、感染防止対策をしながら、活動を続けて頂いた。運営推進会議には毎回交代で参加して頂き、事業内容を詳しく知ってもらえる機会となっている。今年度初めて、ボランティアの方が得意とすることをデイの活動に取り入れ、その講師となり参加してもらい取り組みをした。活動内容は銭太鼓、折紙、茶道で、どれも大変好評で次年度も継続していきたい。